

強者の戦略

筑波大学倫理対策問題〔解説編〕

こんにちは。倫理、政経の平山です。江戸時代における日本思想（学問思想:古文辞学）と古代における中国思想（荀子:性悪説）との共通点を考えさせる問題でした。古文辞学を単独で出題された場合でもなかなか手ごわい問題であるにも関わらず、今回は荀子と2つ合わせての問題で少し混乱した方もいるかもしれません。こういう時どう立ち向かうのか、その部分にも触れて説明してゆきたいと思います。

<異色の思想家、荻生徂徠>

（1）古文辞学とは…

まずは荻生徂徠という人物をまとめてみるどころから入っていきましょう。徂徠が活躍したのは江戸時代中期で、父は犬公方と称された5代将軍徳川綱吉の侍医でありました。ここから、幕府とは密接な関係を保っている家柄の、しかも医師の家に生まれたというところから、幕府・公権力・政治という大きなものに触れる環境で成長していったのが荻生徂徠であったと考えることができます。ただ、父は流刑を受けることとなり、徂徠自身も、現在の千葉県にあたる上総国で困窮の中、独学で学問に励まなければならないという境遇にもなりました。そうした中で許され、江戸に私塾を開く機会を得ます。これがのちの護園塾です。この塾名はのち古文辞学派の別名護園学派の由来ともなります。

さて、江戸での徂徠は柳沢吉保に抜擢され、その才能を発揮します。吉保引退後も、一定の社会的地位を気づいていたようです。

さて重要な思想についてですが、天下泰平の世をめざし、**政治の安定化を第一**と考えました。これを**安天下の道**といいます。安天下の道とは**先王の道**ともいい、為政者による人為的に生み出された秩序に基づく統治のことをいいます。

つまりは、中国古典・文献の知識をもとに、**礼学の**

道、治国のための体制づくりを目指す、ということが古文辞学の中に見出すことができます。

古学の分類

名称(別名)	人物(主著)	内容
古学派 (<small>せい</small> 聖学派)	山鹿素行 『政教要録』	漢や宋の後世の儒学者の解釈を避け、孔子・孟子の原典に触れ、真意を汲み取る。
古義学派 (堀川学派)	伊藤仁斎 『童子問』	『論語』のもともとの意味＝古義を明らかにし、孔子の教えの根本の仁を重視。
古文辞学派 (<small>けん</small> 護園学派)	荻生徂徠 『政談』	省略。

（2）経世在民について

ここからは経済について考えてみましょう。われわれは政治と経済を切り離して考えてしまいがちですが、徂徠の目から見ると、両者は切っても切り離すことができない関係であったようです。それは世を治め、民を救うことが政治の要であり、そのためには現代でいうところの経済の重要性を説きます。**安定した政治は安定した経済あってのこと**、というところになります。

（3）朱子学との違い

江戸時代中期は**朱子学が幕府の官学**であり、この朱子学では孔子、孟子を重視しても、どちらかといえば荀子は軽視されていました。ここに荻生徂徠は一石を投じます。それは**「人為的に生み出す」**という考えです。先述の通り、徂徠は安天下の道は秩序が自然に備わっているのではなく、**為政者による人為的な政治**であると説いているところを思い出してください。古文辞学はこうした秩序を作る、生み出すところに意味を見出した学問であり、そのために文献研究に没頭するという学問です。

強者の戦略

(4) 荀子を考える

さてもう片方の荀子についてですが、こちらは**性悪説**で知られる思想家です。「人間の本性は悪」ではなく「**悪に染まりやすい気質を有している**」と説いたのが性悪説で、だからこそ、**教育や矯正が必要**である。**後天的に改善をする**ことが大切である、と説いています。つまり、自然に備わった秩序や善があるのではなく、人為的に、後天的に、努力や鍛錬といった変化、制度の変更などが重要で、政治改革を求めるということにつながってゆくわけです。

孟子と荀子

人物	立場	内容
孟子	性善説 (仁を重視)	人間の生まれつきの本性は善なるもので、これを育てる必要がある。易姓革命（為政者に仁徳が備わっていない場合、新しい王朝を建てること）を是とする。
荀子	性悪説 (礼を重視)	省略。

以上をまとめて、解答を作成すると次のようになります。

【解答例】

日本の江戸時代に儒教を学んだ荻生徂徠は孔子が尊重した古代の文物・制度を究明する必要を説き、中国古代の聖人がよき統治のために制定した礼楽刑政を安天下の道として尊重し、学問の目的を世を治め民を救うことにあたる経世済民にあるとした。一方、古代の中国で儒教を学んだ荀子は、人間の本性は悪に染まりやすい気質を有しているとする性悪説の立場をとった。人は自らの欲望に任せるままに行動すると世の中が混乱し、收拾がつかなくなる。果ては自らの生活そのものが成り立たなくなるため、この無秩序状態に陥らないようにするためには、聖

人と見なされた君子が定めた外的な規範である「礼」に基づいた利己心に対する外的な規制が必要であると考えた。荀子はこうした礼による強制の努力を偽であると説き、後天的に教育を通して矯正し世の秩序を保つことの重要性を主張した。両者はこのように理想化された制度・規範を重視した点において共通している。(397字)

いかがですか？最初は2つの異なる思想・人物を時代も違うところからどう結びつけ、共通性を割り出すようにすればよいのか悩んだと思いますが、**後天的、人為**という部分において共通性を見出すことができるが見えたと思います。400字論述だからといって、時代が違う、場所が違うからといって、即あきらめてしまうということのないようにしてください。それでは次回の倫理、政治・経済対策問題、ご期待ください。